

こうあるべきとは誰が決めた？

中 一

「中学の制服、変わるらしいよ。」

中学生になると制服を着て登校することは分かっていた。私は保育園に通っていたので、幼稚園のように制服で登園するといった経験がなかった。そのため、制服というものへのあこがれが多少あるものの、スカートがあまり好みではない私には、「へー、そうなのか……」と思う程度であった。「中学の制服、こういうデザインみたいだよ。それから、スカートとスラックスを選べるみたいだよ。」

その言葉を聞いて、最初に思い浮かんだことは「スカートをはかなくていいってことなのかな……」ということだった。しかし、三年間毎日身につける制服であり、本当にそれでいいのかと思つた。私は、いくら考えても答えが出なかった。とても大切なことだからと、我が家では家族会議をすることにした。

まずは、私がスカートを好まない二つの理由に

ついて知ってもらうことにした。一つ目は、小さい頃から走ることが好きで、動きやすい格好を好んでいたためだ。二つ目は、もともと細身であることも重なって、足を見られたくないという思いが強くなっていたためだ。これが、スカートから遠ざかっていった理由だと伝えると、家族は私の思いを理解してくれ、そのことがとても嬉しかった。

次に、家族になぜ制服を選ぶことができるようになったのかということについて考えてみることを提案された。私のように、スカートを好まないケースのほかに、傷などで足を見られなくなったり、スカートで嫌な思いをしたりしたなどの様々な理由があると思うが、一番は制服による性別の区別をつけないことではないかという結論に至った。

私自身、女性であることに違和感はない。ただ、スカートを好まないだけだ。その理由だけで、制服選択を喜んでいただけ。そのことに気が付いたとき、申し訳ない気持ちでいっぱいになった。性別で区別されることで苦しい思いをしている人の話を聞いたことがあったのに、私には自分の思いし

かなかったのだ。

「男性なのだから、こうでないといけない」「女性なのだから、こうでないといけない」「目立ってしまうから、人と違うことをしてはいけない」など、何気ない言葉で苦しんでいる人がいる。そういうことを考えてから、選択の自由について考えるべきであったと反省した。そこに気付けたことで、真剣に考えることができた。

今年度から制服が変わり、制服選択制が導入されたことで、私の他にも悩んだ同級生がいたかもしれない。結論としては、私はスカートを選択した。スカートは好まないが、目立ってしまうことへの抵抗感が強かったのが、理由の一つだ。そしてなにより、本当に苦しんでいる人たちが、自分の気持ちに正直になるための選択として活用されてほしいと思ったのだ。私を含め、悩んだ理由は様々だろう。与えられた権利を使うことに勇気が必要というのも変な話だが、実際に制服選択制を活用した同級生には、とても勇気のいることだったのかもしれない。

自分の思いに正直になることが、なぜ勇気のいることになってしまうのだろうか。それは、「人

と違うことが目立つことになる」という考え方もかもしれない。「周りと同じようにしていれば間違いない」という思い込みからかもしれない。

昨今、個性や多様性を認め合うことについて耳にする機会が増えている。しかし、この考え方は、まだまだ十分に浸透していない。今まで感じていた違和感を打ち明けられずに悩んでいた世代の人がいるのかもしれない。情報が少なく、自分に原因があるのではないかと悩んでいた人もいたのかもしれない。それぞれが自分らしく生きていくためには、個性や多様性を認め合うことについて考えることは必要なことであると思う。しかし、個性や多様性を認め合うことだけを進めるのではなく、その中で関わる人たちの思いや考え方を理解していくことも大切にながら認め合うことが必要なのではないだろうか。そうすることで、悩んでいた人と打ち明けられた人が、理解し合えるのではないだろうか。

今回、制服選択制がきっかけで、性別の区別について考えることができた。自分の考え方と違うものを否定することは簡単なことであると同時に、乱暴なことでもあると思う。私たちには、考える

ための頭があり、受け入れるための心がある。私は、その頭と心を正しく使うことのできる人になりたい。そして、こうあるべきと決めるのではなく、人の思いや考えを理解していききたい。